豊かな感性や協調性をはぐくむ園づくり
ドイツの園庭ビオトープ視察ツアー2012

ー 実施レポート ー

視察企画　(公財)日本生態系協会

後　　援　ドイツ連邦共和国大使館、(社福)日本保育協会、
(公社)全国私立保育園連盟、(NPO 法人)全国認定こども園協会、
日本ビオトープ管理士会

協　　力　(株)ジャクエツ、(株)チャイルド本社、ひかりのくに(株)、
(株)メイト

2012 年 6 月 25 日～7 月 1 日の 7 日間、「豊かな感性や協調性をはぐくむ園づくり
ドイツの園庭ビオトープ視察ツアー2012」を実施しました。

ツアーには、幼稚園・保育所の設置者や保育者を中心に、全国各地から 25 名の方々が参加しました。

乳幼児期における自然とのふれあいは、豊かな感性や協調性を育みます。そのため、今ドイツでは、日常的に自然とふれあえる「園庭ビオトープ」を設置する幼稚園・保育所が増えています。
そこで今回のツアーでは、子どもたちへの環境教育が盛んに行われている緑豊かなまち、バイエルン州を訪れ、自然いっぱいの園庭をもつ幼稚園・保育所や、州の幼児教育研究所などを視察してきました。

Copyright© 2012 Ecosystem Conservation Society-Japan All Rights Reserved

オーバーノイヒング自然体験幼稚園

「ソリができる山が欲しい」、「水遊びがしたい」といった、子どもたちの希望をかたちにした夢の園庭です。子どもたちは目を輝かせて、山や丸太の上を走り回り、高い石垣からジャンプをし、自然豊かな園庭でめいっぱい遊んでいます。
当日訪れた地元の町長の話によると「自然は人間の感性を育てるために重要です。この幼稚園には、自然とふれあい、自然のことを考えながら暮らして欲しいという思いが込められています。」ということでした。

ノッツィング自然体験幼稚園

保護者たちの「自分の子どもに自然体験をさせたい」という思いからつくられた園庭は、この地域の自然に本来生えている様々な草花が咲き誇り、チョウやハチなどたくさんの昆虫や小鳥たちでにぎわっています。子どもたちは、ハチは追いかけたりさわったりしなければ危なくないことを教わっているので、今まで刺されたことはありません。
自分の家では見られない生きものたちとのふれあいを通じて、心身共に成長していく子どもの姿に、保護者も大満足しています。
これら２つの園とテガーンゼー自然体験幼稚園は、自然景観設計士のヴィット博士によってデザインされました。

Copyright© 2012 Ecosystem Conservation Society-Japan All Rights Reserved

ヴィット博士の模範園

ヴィット博士は自然景観設計士（日本ではビオトープ管理士）として、自然をふんだんに取り入れた園庭や公園のデザインなどを行っています。
ご自宅の庭を研究題材として、地域の自然の植物に植え直し、ビオトープにつくりかえました。今では小鳥が子育てをしたり、池にはイモリやカエルが泳いだりと、生きものの多様性が豊かな模範園になっています。地域の気候に適した草木でつくる庭は、水やりやこまめな手入れが必要ないため、管理が非常に楽とのことです。

模範園には非常に多くの在来の草花が咲き誇っています

子育て中の野鳥もいます

皆さんが立っているのは１階の屋根の上。たくさんの種類の野草が生えていました。２階の屋根の上にも野草と大きなソーラーパネルが設置されていました

Copyright© 2012 Ecosystem Conservation Society-Japan All Rights Reserved

AWO森の幼稚園ヴィヒテルルンデ

雨が降ろうが雪が降ろうが、子どもたちは毎日この広大な森に出かけます。子どもたちにとって森そのものが彼らの遊具となり、森の奥へ入って生きものを探したり、ノコギリで枯れ木をきったり、それぞれ自分の好きなことを見つけて、遊び、学びます。
この園を卒業した子どもたちは、規律正しく、集中力があり、自分で遊びを探さなくてはならない環境で育つため創造力が高いと評判とのことです。

バイエルン州立幼年期教育研究所

０～６才まで幼保の双方に関わる保育計画「バイエルン州陶冶保育プラン(BEP)」の制定に関わっている研究機関です。
今までは、子どもたちは同年齢で活動することが奨励されていましたが、この保育計画では、異なる年齢の子どもたちがひとつのプロジェクトを通して、小さい子は大きい子の真似をして、また大きい子は小さい子の面倒をみながら生活することを奨めています。

Copyright© 2012 Ecosystem Conservation Society-Japan All Rights Reserved

ミュンヘン市立子どもの家保育所

BEP に沿った保育をおこなっており、工作の部屋、自然科学の部屋などそれぞれテーマをもった部屋に分かれ、子どもたちは自由に部屋を選び、年齢に関係なく一緒になって遊びます。
この園では、午前中は外遊びをすることになっており、子どもたちは自然豊かな園庭の山をかけのぼったり、木の枝や砂を集めて様々な遊びをします。また、泊まりがけで農業体験をしに出かけるなど、多くの時間を屋外で過ごしています。

工作の部屋

自然科学の部屋

ミュンヘン市立フレートア=ヴエストホフ通り保育所

この保育所では、園庭で遊ぶ以外にも、１週間に１回は地域の森や川などへ出かけ、子どもたちは自然の中で遊びながら自然について関心を高めています。
また、子どもたちは、日常生活の中で、保育者と一緒になってゴミ出しや、分別やリサイクルを行い、ゴミを減らす態度を身に付けています。

Copyright© 2012 Ecosystem Conservation Society-Japan All Rights Reserved

AWOモモ幼稚園

園長先生の「五感を使いながら自然の中で遊ぶことは、子どもの成長に必要不可欠」という考えのもと、自然いっぱいの園庭づくりをしています。それでも自然体験は不十分であると考え、「森の日」を設けて、週に幾度かは近くの森に出かけて、ほんものの地域の自然にもふれています。
美しい川沿いにあるこの園舎は、木綿をつくっていた会社の建物を改装したもので、木のぬくもりと歴史を感じることのできる、あたたかくて家庭的な雰囲気です。

テガーンゼー自然体験幼稚園

改善前の園庭は刺激に欠け、変化にとぼしく、子どもたちが園舎に引きこもりがちになっていました。そこで自然景観設計士のヴィット博士に依頼してつくりかえた園庭です。雨水を利用した水辺や、地域の植物が生える野原など、園庭は多様性にとんだ空間へと大きく変わり、子どもたちは様々な生きものと出会えるようになりました。刺激に満ちた園庭で子どもたちは毎日元気に遊ぶようになりました。

Copyright© 2012 Ecosystem Conservation Society-Japan All Rights Reserved

+++　視察を終えて　+++

今回訪れた視察先では、どこも共通して、「子どもの健やかな成長には、自然とのふれあいが必要不可欠だ」という認識をもっていたのが大変印象的でした。

こうしてつくられた園庭には、ただ地域の自然が取り入れられているというだけでなく、大きな丘やごつごつした岩、匂いのする色とりどりの草花、実のなる木など、子どもたちが五感や創造力を働かせながら遊べるような工夫が随所に施されていました。これといった人工的な遊具がなくても、自分たちで様々な遊びを考え出し、友達同士で協力したり、時には競ったりしながら、夢中で遊ぶ姿が印象的でした。

また、園庭ビオトープをつくるという大胆な改修は、1,000 ㎡をこえる園庭でも、わずか２週間ほどで完成しました。これには保育者たちだけでなく、保護者や地元のボランティアの積極的な参加により成し遂げられました。保護者たちは、人手不足だから手伝うのではなく、自分の子どもには自然豊かな園庭で遊んでほしい、子どもと一緒に時間を過ごしたい、親同士の交流を深めたいという思いから、協力していたそうです。園庭ビオトープが、子どもたちの自然体験の場としてだけでなく、その地域の人たちの交流の場として重要な役割を果たしていることが分かりました。

今回の視察を通じ、参加者の皆さんより「幼児期の自然とのふれあいの大切さを改めて感じた」「自分の園でも、できる工夫があったので早く取り組みたい」といった感想が寄せられ、日本での新たな活動への熱意が感じられました。こうした参加者の皆さんの熱心な姿勢が伝わり全ての訪問先で大歓迎してくださいました。

私たちの協会では、ヨーロッパ、アメリカに事務所をおき、自然の保護や再生、環境教育などに関する世界各国の取り組みについて、常に新しい情報を収集しています。ご要望があれば、個別に視察ツアーを企画しコーディネートすることも可能です。お気軽にご相談ください。

参加者のみなさんと
オーバーノイヒング自然体験幼稚園の園児たち

Copyright© 2012 Ecosystem Conservation Society-Japan All Rights Reserved